

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。 感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。 芸術の幅広い学習を通して自己の美的表現力や創造力を伸ばす。 作品の鑑賞を通して人間の多様性を理解するとともに、美術を愛好する心情を育む。	教科書	日本文教出版 高校の美術1 特になし	
講座名	美術 I	科目名	美術 I			副教材		
単位数	2単位	区 分	選択必修					
年 次	1年次	形 態	少人数					
担当者名	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>	
授業内容	美術の学習について 【My Favorite】 ①友人に紹介したい自分の興味を考える。 ②自分にとって魅力的なものから発想。 ③客観的に視覚的に魅力的な表現を用いる。 ④構想ができれば、各自制作。	個人制作 ⑤完成→鑑賞（プレゼンテーション） 【アクリル絵具の基礎練習】こもれ陽祭で活躍できるように。 【キャンドルハウス】 ①構想 ②スタイロフォームの削り	夏季休業期間 ③石粉粘土で土台作成 ④やすりかけ ⑤窓開け ⑥装飾	⑦着彩もしくはやすりがけ ⑧完成 講評、発表点灯式 【油絵】 ①油絵に使用する道具の基本的な使用について学ぶ。	冬季休業期間 ②キャンバスに下描き。 ③下地作成。 ④混色の技法を学びながら、着彩を進める。 ⑤完成 ⑥鑑賞会	
定期考査までの授業数	時間	時間	時間	時間	時間	

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	①自分の中から想像し、作品を創り上げようとする意欲・関心・態度。 ②造形要素の理解と創造的な表現の構想、意図に応じた多様な表現方法や基本的な技能が身に付けているか。 ③プレゼンテーションに対して自分なりに前向き（人により伝わる方法を模索する）に取り組んでいるか。 実技作品、レポート等提出物、実習に対する取り組む姿勢等により評価する。
---------------	--

日常の 学習方法	①授業中 1年を通して3つの個々の作品制作を行う。立体と平面について、制作を通して楽しく学ぶ。自分の制作したいものになるように、試行錯誤を行うことで総合的な美的感性を養う。道具の基礎・基本と、適切な扱いを学ぶ。 ②授業では扱う時間がないため、授業の合間に、デザインについて動画等で紹介する。家庭学習や日ごろの生活の中で美的感性を高めていく機会にする。
-------------	---

大学受験や 発展的な 内容との 関連	美術系への進路を考えている生徒は自分の適性を早くから自覚して受験の準備可能。相談を受けます。美術の授業は、自己表現の時間なので、多くのことに積極的に挑戦して自分に合う表現方法を身に付ける。
-----------------------------	--

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	あらゆる美術分野の基礎である素描の学習を行い、基礎的な素描力をつける。 多くの美術大学の入試に課せられる素描の出題傾向を把握しその対策を講じる。	教科書		
講座名	素描	科目名	素描			副教材		
単位数	2単位	区 分	自由選択					
年 次	3年次	形 態	選択					
担当者名	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組

学校行事	第1学期	遠足	<第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	授業ガイダンス			夏季休業期間	講評			講評	冬季休業期間	鉛筆デッサン(過去問)
	木炭デッサン(石膏)				鉛筆デッサン(静物)			クロッキー(人物)		個別指導
	講評							木炭デッサン(過去問)		
定期考査までの授業数		時間		時間		時間		時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	意欲的に素描の学習に取り組む、創造的な表現の構想ができ、素描力の基礎基本が身に付いているか。 作品 レポート等提出物 授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 与えられたモチーフを描いたり、各自でモチーフを組んだりしながら、短時間に集中して完成させ、数多くの素描の作品をつくる。 ②家庭学習 特にありません。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	素描デッサンは美術大学や美術系の入試に必ず設けられている。その大学の傾向と過去の出題傾向を研究し効果的に力をつけていきたい。
---------------------	--

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	提出作品、レポート(鑑賞)、実習に対する取り組み、授業態度など 古典作品から多様な表現方法、技法を学ぶ。感じる力、創作する力を高めていく。 大学では教育学部(書道科)、文学部(国文、中国文学科)などで専門的に学べる。 自己紹介	教科書	感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。 書道の幅広い活動を通し、書を愛好する心情を育み感性を豊かにする。 書写能力を高め表現、鑑賞の基礎的能力を伸ばす。	
講座名	書道 I	科目名	書道 I			副教材		
単位数	2単位	区 分	選択必修					
年 次	1年次	形 態	少人数					
担当者名	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組

学校行事	第1学期	遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	行書 草書 隷書 篆書	作品づくり 仮名の歴史 平仮名	夏季休業期間	百人一首の作成	漢字仮名交じりの書	冬季休業期間		
定期考査までの授業数	時間			時間		時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	漢字の書
---------------	------

日常の 学習方法	楷書
-------------	----

大学受験や 発展的な内容との関連	
---------------------	--